
社会の形成に積極的に参画する力を育む社会科学習

～地域素材を生かした授業づくりを目ざして～

長崎市立土井首中学校 教諭

いけだ のりひこ
池田 憲彦

※本実践は平戸市立中部中学校在籍時のものである。

1. はじめに

長崎県中学校教育研究会社会科部会(以下、本県)では、平成 24 年度から「社会の形成に積極的に参画する力を育む社会科学習』を研究主題として研究を進めてきた。また、教師が将来、社会に参画する上で考えられる具体的な場面を授業の中で設定し、「三つの学習」(①事実認識の学習, ②価値認識・価値判断の学習, ③意思決定・合意形成の学習)と「四つの能力」(①社会的事象を多面的・多角的に考察できる能力, ②社会的事象の意味・意義を解釈できる能力, ③社会的事象を公正に判断できる能力, ④社会的事象の特色や関連を表現できる能力)を掲げて研究を深めてきた。平戸支部社会科部会(以下本市)においても本県が掲げた研究主題等を踏襲するとともに、本市が長年研究している「地域素材を生かした授業づくり」をサブテーマに掲げ、独自性をもって研究に取り組んできた。

平戸市は、九州本土の西北端に位置する田平町と、平戸大橋で結ばれている平戸島、及びその周辺に点在する島々を行政区域としている。北は玄海灘、西は東シナ海を望んでおり、古くは遣隋使船・遣唐使船の寄港地、海を舞台に活動した倭寇の拠点、捕鯨基地など、いにしえよりアジア各地との重要な海上交通の拠点として交易が栄えてきた。特に大航海時代の 1550 年に初めてポルトガル船が平戸港に來航して以来、南蛮貿易港として繁栄し、17 世紀前半にはオランダ・イギリスとの交易で潤う国際貿易都市、「西の都」平戸として発展を遂げていった。1641 年にオランダ商館が長崎の出島に移った後も、その足跡を大切に後世に引き継ぎ、現在でも海外との交流を示す建物や美しい教会が点在しており、当時の息遣いを今に伝える異国情緒と歴史ロマンあふれる旧平戸藩松浦氏の城下町である。平成 30 年 6 月には、県民待望の「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産への登録が決定した。平戸市からは「平戸の聖地と集落(春日集落と安満岳・中江ノ島)」が登

録されるなど、世界的にも貴重な歴史や文化が見られる。

本稿では、平成 30 年度に開催された第 4 回長崎県中学校社会科教育研究大会県南大会における歴史的分野の研究発表の概要を中心に筆を進めることとする。

2. 具体的な取り組み

本県では、研究主題のもと、「さまざまな視点や立場から社会的事象の価値を見つめ、社会の課題を見出すとともに、自己の考えを表現する力」を社会に参画する力、すなわち「社会参画力」として定義し、研究を進めてきた。社会的事象の特色や意味などを、問題意識をもって考察し、自分の考えを表現することにより、より主体的に社会に関わることが期待できると考える。

本市では、図 1 の 3 点をふまえて、教師が地域素材を活用して、社会的事象や事実とインパクトのある出合いを演出することにこだわってきた。そのことにより、歴史的事象をより身近に捉えさせ、多面的・多角的な思考を促すとともに、現在の地域の課題をより深く考えさせることができた。また、生徒の生活基盤である地域を教材化することで、地域の特質を主体的に考察し、社会参画の意義と態度を高めることができると考えた。教師の意図と生徒の思いが一致し、生徒の学習意欲が高まるとともに、「問い」を主体的に追及する取り組みとして結実するはずである。

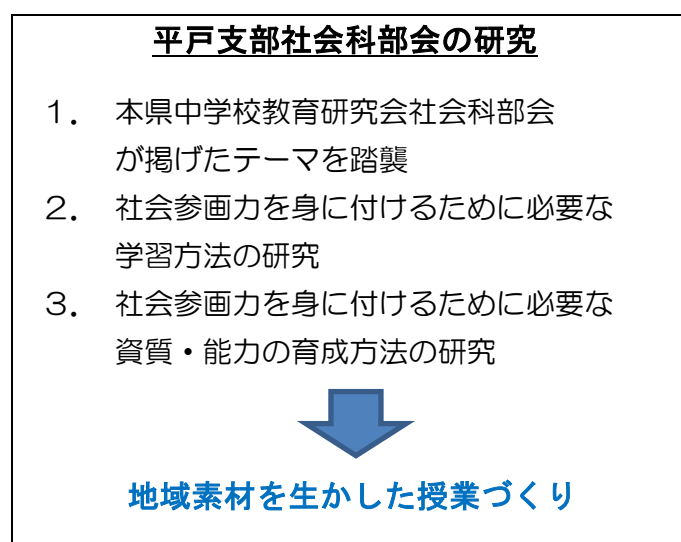


図 1 社会科部会の研究

(1)カリキュラムの再構成

図 2 のようにカリキュラムを再構成し、単元を貫く「問い」を生かすことにより、「主体的・対話的」な学びにつなげていく。

学習項目	単元を貫く問い	「平戸」を生かした学習項目
1 結びつく世界との出会い (4)鉄砲とキリスト教の伝来	自分にできることを考えよう。 平戸の現在につながる中世の歴史を知り、	○南蛮貿易と平戸
2 天下統一への歩み (7)南蛮文化と桃山文化		○キリスト教徒平戸
3 幕藩体制の確立と鎖国 (9)キリスト教と海外への行き来の禁止		○鎖国と平戸
4 経済の成長と幕政の改革 (12)経済の発達と都市の繁栄		○自分と平戸

図2 カリキュラムの構成

(2)地域素材を生かした授業実践

図4(本時の展開)のように、単元を貫く問いを当時の南蛮人や紅毛人は、「①なぜ日本(平戸)に来たのだろうか?」、「②その後の日本はどのように変わったのだろうか?」の問いを設定し、「社会的事象の意味・意義を解釈できる能力」と「社会的事象の特色や関連を表現できる能力」の育成を主たる目標として授業を実践した。目標達成の手段として、KJ法を用いて、班活動を通して生徒一人一人の考えを出し合うなど、思考力・表現力を高める点に重きを置いた。



写真1 キーワードを出し合う



写真2 話し合いながら分類



写真3 模造紙にまとめて発表

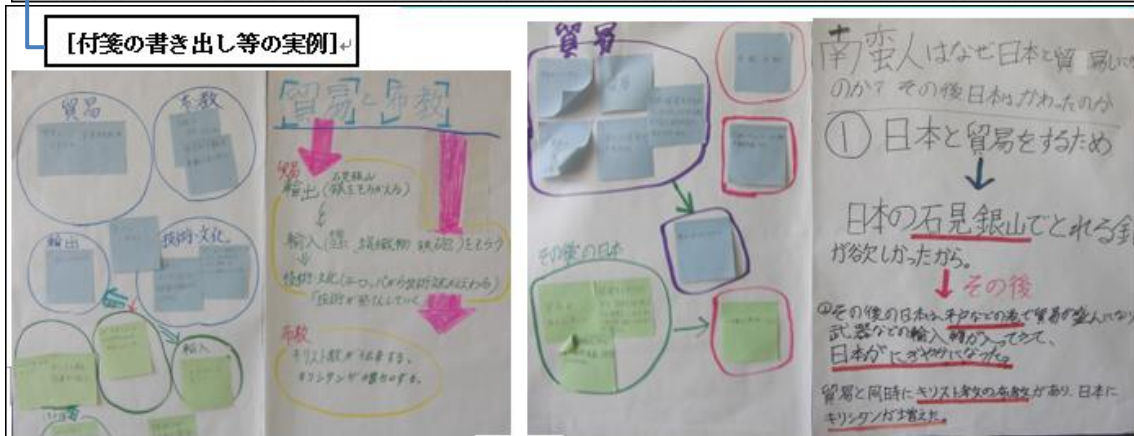


図3 班活動や発表の様子

(○→3つの学習、☆→4つの能力)				
過程	学習活動	形態	教師の指導と支援	評価・教材等
導入 【つかむ】 5分	1 教科書(4章)に記載がある「平戸」という文字を探す。 2 世界古地図に注目させ、当時平戸はヨーロッパ人に「FIRANDO」とよばれていたことを知る。	個人 一斉	1 本時の学習に対する意欲を喚起させる。 2 「FIRANDO」(平戸)はヨーロッパの人々にとっても重要な拠点の1つであったことに気づかせる。(西の都)	教科書 世界古地図 ICT(DVD) ○事実認識 ☆意味・意義
展開 【見通す】 20分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 学習課題(単元を貫く問い) 当時の南蛮人(ポルトガル人・スペイン人)や紅毛人(イギリス人・オランダ人)は、 ①なぜ日本(平戸)に来たのだろうか？ ②その後の日本はどのように変わったのだろうか？ </div>			
	3 『ふるさと長崎県』p.75の2行目までを読む。 4 平戸海外交流史の流れを確認する。 5 「平戸なんでも事始め」ポスターのオランダ商館の箇所を読む。	一斉 一斉 一斉	3 平戸の港に入港した貿易船や生活にとけこんだヨーロッパ文化について押さえさせる。 4 略年表を提示し、平戸とヨーロッパとの対外関係を確認させる。 5 「平戸なんでも事始め」ポスターを提示し、拡大した一部の文章が書かれたプリントを配布する。	ふるさと長崎県 ICT(自作年表) ポスター・プリント ○事実認識 ☆特色や関連を表現
追究 20分	6 学習課題に対するキーワードをそれぞれ考え、付箋に書き出し、用紙に貼る。 7 (1)各班でキーワードを出し合い、グループ分け(分類や関連付け)を行う。 (2)話し合った結果を模造紙にまとめるなど、発表の準備を行う。	個人 ↓ 班	6 既習事項や諸資料をもとに、できるだけ多くのキーワードを書き出させる。 7 相互の意見交換を促すとともに、班内で問題の意味等を理解できていない生徒には教え合うように指示する。 (1)それぞれが付箋に書き出したキーワードをもとに、各班でその意味を確認し、分類や関連付けをしながら課題について追究させる。 (2)一番主張したい考えをタイトルにし、矢印などを用いて、順序立てて模造紙にまとめ、説明できるようにさせる。	〈評価〉 ①【資料活用 の 技能】 〈評価〉 ②【思考・判 断・表現】 ○価値認識・価 値判断 ☆多面的・多角 的考察
まとめ 【まとめる】 5分	8 まとめた内容を各班の代表者がそれぞれ発表する。 9 教師の話聞く。	一斉 一斉	8 他者の意見をもとに自分の考えを広げ、深めさせる。 9 地域に関心を持ち、追究していくことが、社会に積極的に参画することに繋がることを確認させる。	○意思決定 ☆公正に判断

図4 本時の展開

(3)地域巡検（平戸支部社会科教師の学びの場）

本市では、教職員の研鑽及び地域素材の教材化を図るため、毎年地域巡検を行っている。「歴史とロマンの島・平戸」の言葉のとおり、市内にはわが国の歴史に関わる様々な名所や旧跡等が各所に点在し、往時の佇まいを今に伝えている。これまでの巡検での主な見学地は、平戸城、松浦史料博物館、オランダ商館・オランダ堀、寺院と教会、キリシタン資料館、生月町博物館「島の館」、春日集落などである。

〈平戸市ウェルカムガイドによる案内〉



〈三浦按針の墓地〉



〈寺院と教会が見える風景〉

図5 地域巡検の様子

3. おわりに

新しい学習指導要領では、「何ができるようになるか」、そのために「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、つまり生徒にどのような資質・能力を育み、そのために何をどのように学習するかが問われており、「社会的な見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現が求められている。今後もますます知識偏重からの脱却が求められるといえる。今回、歴史的分野での社会参画力の育成は、試行錯誤の繰り返しであったが、貴重な地域素材を生かして、生徒の主体的な学びを促す「問い」を設けての研究をさらに進めていきたい。